

総研ビズアップ Web セミナー収録用資料

【適切な介護記録の書き方と、その活かし方】

◆介護記録の書き方

- 介護記録の意義・目的
- BPSD の説明を聞く、記録を見る家族の思いとは
- 記録の書き方の基本
- ケアプランの目標と介護記録の関係
- 記載のポイント
- 好ましくない記録の例
- BPSD における介護記録例
- 周辺症状の記載例

◆介護記録の活かし方

- (1) 記録を目標設定に活かす
- (2) 記録を支援の方針の見直しに活かす
- (3) 施設サービス計画の目標の変更へ
- (4) リスクマネジメントにつながる記録について
- (5) 職員研修に活用する事について



㈱東京シティ福祉サービス FC 加盟店

福岡シティ福祉サービス

介護記録の意義・目的

記録の役割

- ・生活者の生活の証と提供者の支援の証を残す
- ・利用者の状態や心理面・生活環境の把握
- ・ケアの連続性を可能にする



利用者の生活を点ではなく面にとらえる

ケアの前後で記録から何が問題なのか、何が起こっているのかをつかむことができる

- ・ケアの内容を明確にしてチームで共有する



チーム全体のスキルを高めサービスの質の均一化

記録の標準化が重要
同一組織において記録の
ルールを定める。

- ・万が一の時「介護事故」から自分を守る

「ヒヤリパット」「事故報告書」などの記録がなければ、利用者に対し損害賠償を求められることがある
適正なケアをしていたにもかかわらず、それを証明するものがなければ第三者から正当性は認められない

- ・支援の結果を社会に発信する

社会に対し情報公開やより効果的なPR活動を行う。どういう支援を行っているのかを明らかにしなければならない

記録を残すこと

利用者・家族の信頼関係を築く

記録を残していない

ケアをしている

BPSDの説明を聞く、記録を見る家族の思いとは

利用者・家族の気持ち

- ・スタッフの人たちに大切にされているだろうか、ぞんざいに扱われていないだろうか
- ・施設の方に迷惑をかけていないだろうか。

記録の中に「徘徊」「暴言暴力」「介護拒否」などの表現があったら・・・

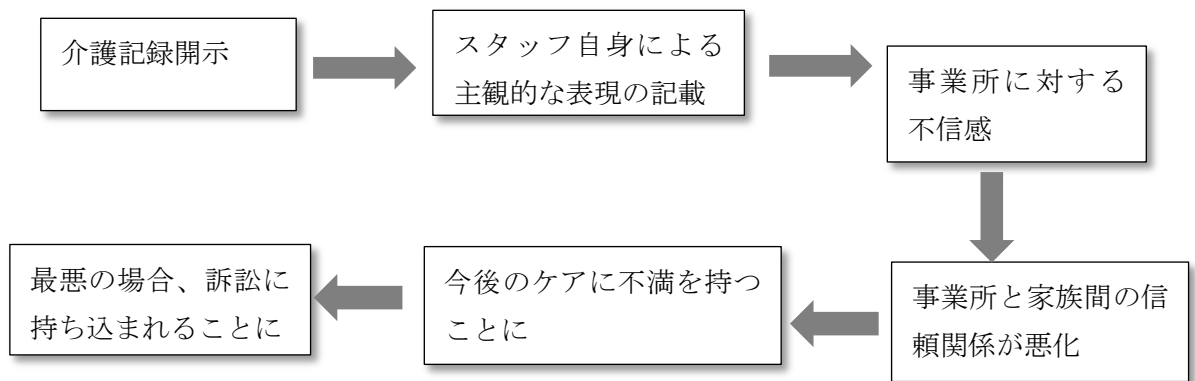


怒りの感情

「やっぱり、ぞんざいな扱いをされているんだ、そんなに迷惑なのか、うちの家族を軽率に扱いやがって」
「うちの家族を上から目線で見ている、そんなにあなたたちは偉いの？」
「うちの人の人格を否定されているようだ」



事業所の事が信用なくなり利用者家族と事業所の信頼関係を構築するのが、困難になってくる



介護記録の開示

説明責任（アカウンタビリティ）

＝
＝
同じ事

記録の書き方の基本

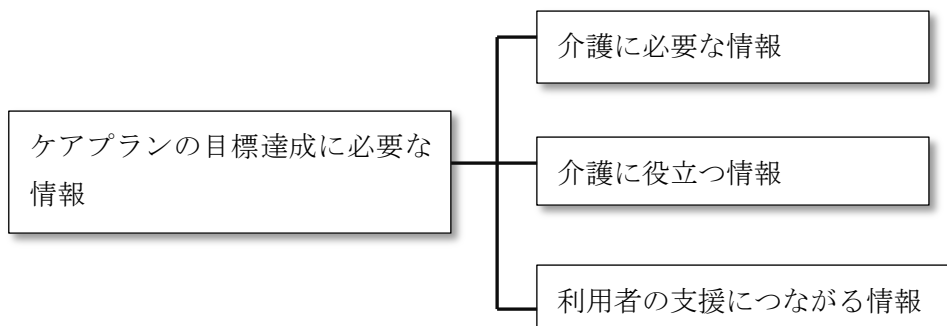
- ・ When (いつ)
- ・ Where (どこで)
- ・ Who (だれが)
- ・ What (何を)
- ・ Why (なぜ)
- ・ How (どのように)



5W1Hの基本が7記録を書くときの
大原則となる

ケアプランの目標と介護記録の関係

全ての介護記録はケアマネから提出されたケアプランの目標に沿った記録をしなければならない。



事例

ケアマネから提出されたケアプラン

長期目標

施設内を転倒なく確実に一人で歩行することができる。

短期目標

歩行訓練を繰り返し、1日3分は手すりにつかまりながら、歩くことができる。

ケアプラン
を反映



介護現場での介護記録

書くべき情報

- ①利用者の日常生活の歩行の様子はどうであったか
- ②歩行訓練時の様子や効果はどうであったか
- ③職員が歩行介助したのはどんな状況の時に、どのような介助をし、その時の利用者の反応(表現、言動)はどうであったか
- ④職員がどんな声掛けをし、どんな会話を交わしたか
- ⑤職員が気づいたこと

長期目標

楽しみをもって生活できるようにする

短期目標

- ・レクリエーションに参加し、楽しみを見つめられるようにする。
- ・他の利用者と雑談できるようにする。

ケアプランを
反映



書くべき情報

- ①利用者の日常生活の様子はどうであるか
- ②どんなレクリエーションに興味を持っているのか
- ③レクリエーションに参加時の利用者と職員はどのような会話を交わしたか
- ④他の生活場面で利用者が楽しみを持っていることは何か
- ⑤職員が気づいたこと

記載のポイント

①利用者の身体面、精神面、環境面 [周囲の状況など] をしっかり観察して正確に！

・長期目標のかかわりは文章にして書くこと

ケアプランの長期目標に係ることを中心に記載する⇒利用者と契約時に約束した内容が以下に行っているかを記録に正確に残す

例

長期目標

趣味のカラオケを大切に、生きがいの持てる人生を提供する。それによってリハビリなどへの参加意欲を高める



カラオケの参加状況を確認して参加した時、不参加の時で利用者がどのように変化があったのかあるいはカラオケその他のこと（ここでは特にリハビリ参加）にどのような効果を及ぼしているか、などを記載

②ケアの目標や次のサービスに役立てることを意識する

利用してまだ日が浅い鈴木さんが、朝から施設内を歩き回している為、聞いてみると、「家に帰りたい」と言っていた。しかしながら朝食の準備に関心を示し、鈴木さんがその場を離れ、訴えが中断したため、特段の対応はしなかった

その日の午後、フロアにいた鈴木職員が、別の利用者をトイレに誘導し介助している際に鈴木さんが居室横の非常口のドアを開け、出ていこうとしているところを発見した。それに吉田も気づき、鈴木さんに声をかけ、居室に無事誘導できた。

今回の反省点とし、カンファレンスを開催し、鈴木さんに対し、“異変”（不安げに歩き回る、「家に帰りたい」と訴える等）を察知した場合、すぐにフロアスタッフ全員に周知し（スタッフルームの掲示板、または申し送り簿）気づいたスタッフを中心に、様子観察を行い、当日は終日注意すること。

また鈴木さん本人がなるべく関心を持ちそうなことを探り、参加していない行事等にも積極的に声をかけ、参加を促すことを申し合わせた。詳細はカンファレンスノートに記載

今回の出来事をどう対処していくのか、
考えられる解決策を記載しておく。

③正確な情報、また確認できた情報を記載する

- ・事実を確認してから記録に残す
推測する場合でもその根拠が必要

田中（介護職）が夜間に居室を巡回中、加藤さんがベットの横の床に転倒しているところを発見した。

田中（介護職）が夜間巡回中、加藤さんがベットの横の床に寝ているのを発見した。

転倒を目撃していなく、巡回中、床の上につぶせの状態の利用者を発見したに過ぎない。この時点で転倒と記録するのは早計というもの。この段階では、事実をありのままに記録。

特に外傷もなく意識もあったが、すぐに高田看護師に連絡し、高田看護師も同様に確認を行う。

しかしながら特別異常は見られなかった。高田看護師から、斉藤施設長及び鈴木医師に連絡後、その後の指示もあり、ベットへ移動し、安静にして様子を見ることとし、バイタルサイン等その後の状態確認を行った。朝まで特段の変化や訴えもなく加藤さん本人もその後、良眠状態で異常も見られなかったが、就寝時、通常ベットサイトに設置してる車いすが壁際に放置されていたことから考察すると、自力でベットから車いすに移乗しようとして失敗し、転倒したと推測される。

④主観的な記載に注意

- ・「わがまま」「頑固」「介護拒否」などの表現は事実よりも記録者の主眼を色濃く反映している



チームケアで共有することを考えるとその利用者に対する偏見が生まれてしまい信頼関係が失ってしまう

入浴時に介護抵抗がある清水さんに、今日も入浴拒否がみられた。
清水さんは全身のまひや拘線が激しく、骨折の危険性も高いため、入浴の際は職員が2人体制で対応しており、常に細心の注意を必要としている（計画書にも記載あり）

そのような状況でも、対応する職員が変わると、日によっては嘔みついたり、引っかくなどの介護抵抗があり、対応が非常に困難である。

⑤BPSDについて

「介護抵抗」という記録

第三者に伝わらない

介護抵抗という言葉は、ネグレストと思われても仕方ない。

Aさんがお風呂に入ってくれなく、入浴拒否され、
介護抵抗された。



それに対するアプローチ法が記載されているか

Aさんはお風呂の時間になると必ず入浴拒否をする



Aさんはお風呂の時間になると「いつもの〇〇【スタッフの名前】は今日はいないの？じゃ入りたくない」と言われた
今回の出来事を、カンファレンスを開催し、出来るだけ〇〇に入浴介助を担当させること、担当できないときは事情をAさんに話してご理解していただくようにするよう情報共有を図ることとする

介護記録を書くための大切なこと

5W1Hの基本を守る
しっかりと観察して正しく記載する
次の目標やサービスに役立つことを意識する
確認できた正確な情報を記載する
主観的な記載に注意
ツールを上手に活用
時間を確保する
記録をためない

好ましくない記録の例

6つのタブー

①記録漏れ

- ・ 月日、時刻、サイン〔記録者氏名〕など
- ・ 重要な事項の漏れ⇒『記録の信用性』に係る

②読み取れない文字や文章

- ・ 崩し文字
- ・ 勝手な記号、文字

例) Aさん宅に行ったがDS利用中につき留守だった

SS利用中につきサービスを中止した

- ・ 介護スタッフでは「DS」＝デイサービス、「SS」＝ショートステイ
- ・ 「PT」＝理学療法士、ポータブルトイレ

} どっち？

③適切でない訂正方法

- ・ 修正液、修正テープを使う
- ・ 訂正事項がバラバラ⇒事業所内で訂正方法を統一しておくことが大切

④誤解を招くような記述

- ・ わがまま、頑固、暴力的といった利用者の言動や人格を否定するような記述は全体避けなければならない



これらの言葉はスタッフの主観を色濃く反映している

・食事中に暴言を吐いた

・お風呂に誘導しようとしたら暴力を振るわれた



・食事中「バカヤロー、こんなまずいものが食えるか!」と言われた

・お風呂に誘導しようとして腕を軽くつかんだら「今は入りたくない」といって押し返された

・推測を断定的（決めつけて）に描く

断定的に描くことを避けなければならない「～である」

「～と思われる」「～と考えられる」などの推測であることがわかるような表現にする

「熱があるようだ」「痛みがあるようだ」などの推測を交えた記録



ネグレスト（介護放棄）とも取れる

熱があるから痛みがあるからどう対処したのかを記録に残すことが大切

・推測した根拠がわかるようにする

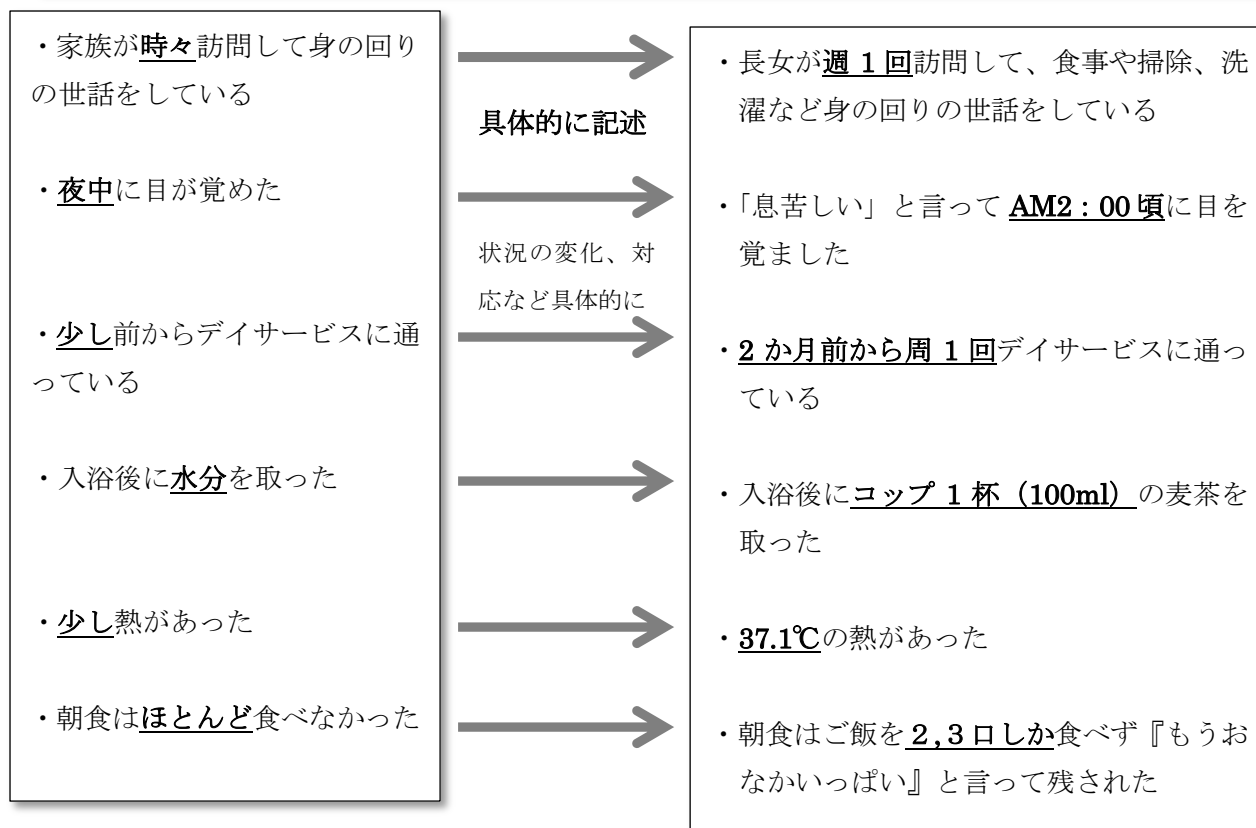
たとえば利用者が『生きる気力を失っている』と感じたのであればなぜそういえるのかをその時の会話、利用者の発した言葉、エピソードなどを書いてそう推測した根拠を示す

家族や友人の訪問も少なくなり、生きる気力を失っている



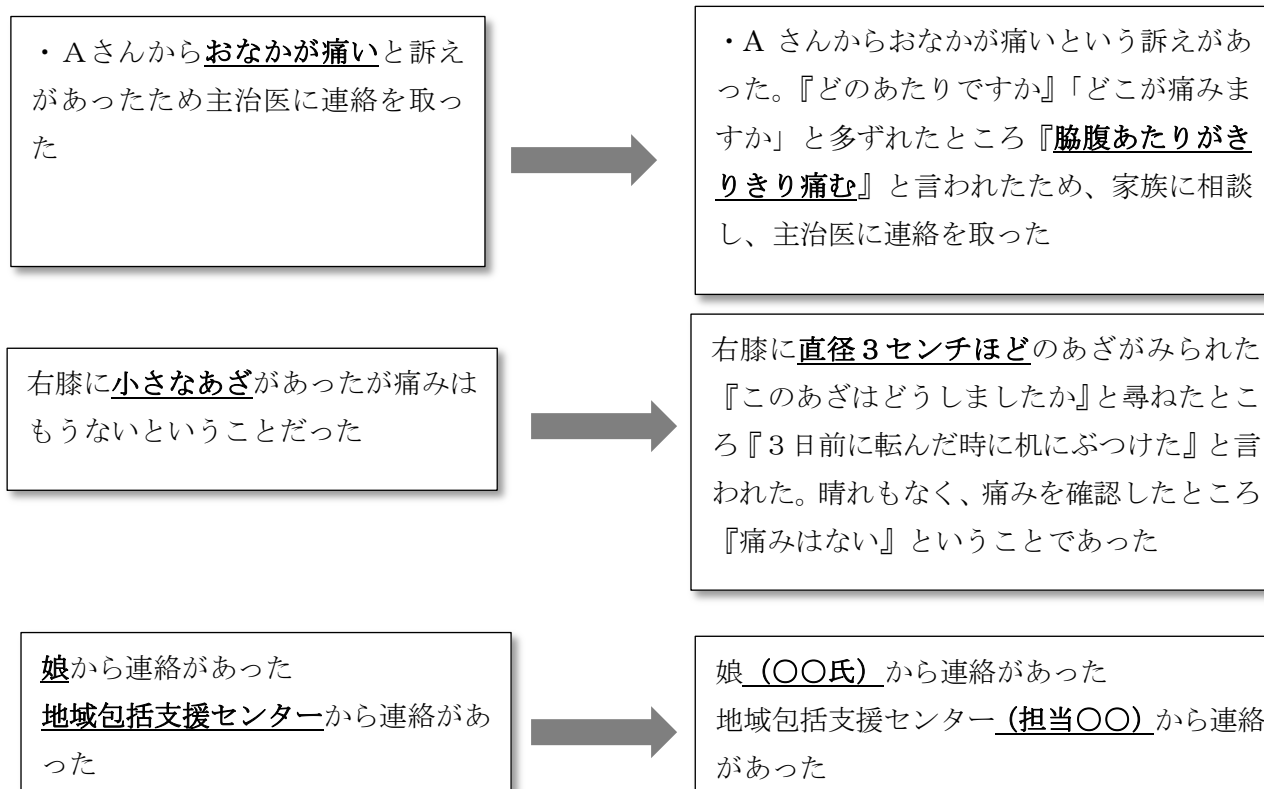
家族や友人の訪問も少なくなり、時折『だれも相手してくれない。生きててもしょうがない』とつぶやくことがあり、生きる気力を失っているように思われる

⑤ 「ときどき」「少し」などあいまいな表現



また健康状態について、特に普段形と違う変化があった時は的確に状況を期すことが求められる

- ・痛みを訴える場合、どの部分がどういう風に痛むかなど利用者に訪ねて記録に残す。
- ・また援助者としてどのように対応したのか具体的に描くことが重要



BPSDにおける介護記録例

ポイント

- ・利用者から発せられた言葉を記載する
- ・主観的な言葉「暴言、介護拒否、入浴拒否等」の記載は言語道断！
- ・常に BPSD が利用者の心理状態から起こっているのだという視点から記載すること
- ・場合によっては今後の解決策に結び付ける記載を心がけること

①入浴の場面にて【介護拒否】

入浴介助の最中、〇〇さんがスタッフ××の手を引っかき始めた。突然の事でびっくりした。今回はいつものスタッフがたまたま休みだったので代替りの××が介助に入ったのだが。そこで「何か気に障ることはありませんか」と聞くと体を指して何か訴えかけている。「今日は△△が休みなんですよ。だから私が担当させていただきますね」と言うと落ち着いた様子で入浴されていた。

このような状況を踏まえ今後は、〇〇さんの入浴介助に入る際、いつもと違うスタッフが担当するときは、必ず事前にその旨を〇〇さんに伝えることを徹底することを朝のミーティングで伝達・確認することにする。

スタッフ××と〇〇さんのやり取り、
〇〇さんから発せられた言葉を記載

今後の解決策の記載

②居室にて【物盗まれ妄想】

AM3:00 過ぎ、「誰か来て～」と〇〇さんからの悲鳴。急いで居室に何うと「ここにおいていた指輪がないの」と言われ、パニックを起こされていた。スタッフ××が「どこにおいてたのですか」と聞くと「ここにおいてたの、大切な指輪なの、主人がくれたものなのよ」と言われる。××が「大丈夫ですよ。ご安心ください。私が探しておきますから・・・探し当てたらすぐ連絡しますね、もう遅いからゆっくり眠られてください」というと「じゃ、お願いね」と言って床に就かれた。

2日に1回はこのような事が繰り返し起こる。そこで〇〇さんの生活歴から〇〇さんにとって指輪がどんな意味があるのか、私たちに何を訴えているのかをカンファレンスを開いて検討する必要がある。

スタッフ××と〇〇さんのやり取り
〇〇さんから発せられた言葉を記載

繰り返される言動に対して〇〇さんがどう
いう心理状態から起こるのかに視点
を置き今後の解決策を記載

周辺症状の記載例

①徘徊について

【悪い記載例】

〇〇さんが施設内を徘徊している

この場合、スタッフと利用者との会話、やり取り、利用者から発せられた言葉をそのまま記載。



【良い記載例】

〇〇さんが施設内を歩いているので「どうかされましたか」とお聞きしたところ「もう少ししたら、娘が帰ってくるので帰らないと・・・」と言っておられたので・・・

②妄想

【悪い記載例】

部屋に戻ると妄想が出始めたようだ

この場合も職員とのやり取りを記載するように



【良い記載例】

部屋に戻ると「結婚指輪がない！」と言っておられたので一緒に探すことにした。「出てきましたよ」というとホッとされていたが、今後、結婚指輪が〇〇さんにとってどんな物なのかをお聞きするなどして、今まで過ごしてきた生活歴を考慮したうえでスタッフ同士で話・・・

③暴言

【悪い記載例】

その① 食事中、スタッフ〇〇に向かって暴言を吐き始めた

その② お風呂に誘導しようとしたら暴力を振るわれた

この場合も利用者の方から発せられた言葉をそのまま記載するよう。



【良い記載例】

その① 食事中「バカヤロー、こんなまずいものが食えるか！」と言われた

その② お風呂に誘導しようとして腕を軽くつかんだら「今は入りたくない」といって押し返された

④興奮

【悪い記載例】

居室に行くと〇〇さんが興奮しているようだ

この場合も、利用者とスタッフとの会話のやり取りを記録するように



【良い記載例】

「早く誰か来てー」と〇〇さんが言うので急いで△△が居室に駆けつける。

「どうされましたか？」とお聞きすると「そこに誰か男の人がいるの。私怖くって・・・どうしたらいいかわからなくて、しばらくここに一緒にいて」とおっしゃるので「大丈夫ですよ。私がいますから安心してくださいね」

⑤【帰宅願望】

【悪い記載例】

〇〇さんは決まってこの時間になると「家に帰る」と帰宅願望が出るようだ。

この場合も本人から発せられた言葉と職員とのやり取りを記載するように



【良い記載例】

「家に帰る」とおっしゃるので「家に誰かおられるのですか」とお聞きすると「娘が帰ってくるから。私が帰って夕食を作ってやらないと」と言われるので・・・

⑥入浴拒否

【良い記載例】

なかなか入浴してくれないという入浴拒否が見られる

この場合も、入浴介助に入るまでの利用者とスタッフとの会話、また利用者の様子を記載



【良い記載例】

「お風呂が沸きましたよ」と浴室にお連れし、体を洗うのを手伝おうとすると突然入浴は嫌だと言われた。「どうされましたか」と聞くと「いつもの△△さんがしてくれるのに、今日はどうしてあんななの？いつもの〇〇さんにしてちょうだい」とおっしゃるので事情を話すと納得してくれたようで・・・

⑦暴力

【悪い記載例】

日中、利用者の〇〇さんといざこざが起こり、〇〇さんが△△さんに暴力をふるいそうになっていた

この場合も二人のやり取りの様子、2人から発せられた言葉を記載するように



【良い記載例】

日中デイルームで過ごしていると、何やら利用者同士の声がするので駆け寄ってみると〇〇さんが「いつもボケてるお前なんかには渡すもんか、おとなしく部屋に戻っとけ！」と言い、△△さんの胸ぐらをつかんでいた。

認知症本人に現れる行動（BPSD）と心理状態の関連性について

周辺症状の意味しているところは以下の2点に絞れる

周辺症状は本人が人生の後半で残してきた宿題を解決しようとしている行動をあわらしている

エリック・エリクソンのライフリスク論を使うと以下のような事例が考えられる

エリクソン生涯発達理論と見当識障害の関係

期	人生における解決すべき課題	未解決な課題	⇒	認知症高齢者に見られる振る舞い
乳児期	基本的な信頼 VS 基本的な不信	基本的な不信	⇒	・非難、絶望的、無力、無益 ・新しいことをすべて恐れ、感情を飲み込む
幼児期	自律性 VS 恥、疑い	恥、疑い	⇒	・良い子のように NO と言わない ・リスクを恐れる ・自己不信 ・コントロールを失うことを恐れる
遊戯期	主導権 VS 罪悪感	罪悪感	⇒	・新しいことに挑戦しない ・憂鬱、罪悪感 ・いつも泣いて苦しんでいる
学齢期	勤勉性 VS 劣等感	劣等感	⇒	・「私はだめな人間だと思ってしまう」 ・憂鬱になる
思春期	アイデンティティ（同一性） VS アイデンティティの混乱	アイデンティティの混乱	⇒	・男の人がベットの下のいる ・他の人の名前を言う
若青年期	親密 VS 孤立	孤立	⇒	・自分の殻に閉じこもり、人を遠ざける ・依存する
青年期	生殖性（生み出す） VS 沈滞（停滞）	沈滞（停滞）	⇒	・年を取ること、古い考え方、社会的立場に執着する ・年を取ること失う言雄を否定する
老年期	成熟（統合） VS 絶望、嫌悪	絶望、嫌悪	⇒	・憂鬱、周りの世界に対する嫌悪 ・失敗を人のせいにする ・私は「だめな人間」だという

事例 発達段階としての幼児期と周辺症状

《自律性を得られなかった場合》

親が私たちに繰り返し完璧さを求めてきた場合、子供は恐れを抱き、新しいことにチャレンジできなくなる



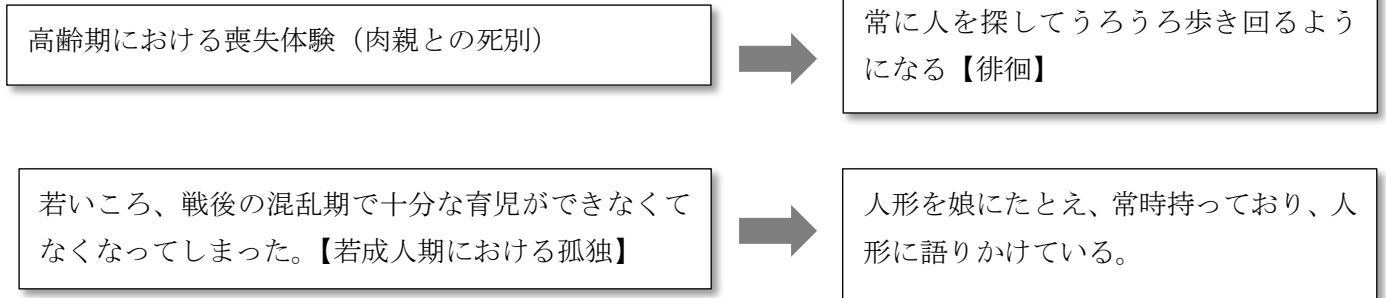
その結果

当識障害に現れる BPSD として現れる行動

今迄の出来事に固着し、自分のもっているものにしがみつき、常に未経験の出来事を恐れするようになり、何とかこの状態から抜け出そうと本なんなりに解決策を探ろうとする

未解決の課題

問題行動 (BPSD)



BPSDは欲求を満たすために本人なりに相手に分かってもらいたいことを伝える手段である

◆マズローの段階的欲求と見当識障害

マズローの欲求段階説	見当識障害のある高齢者に当てはめた場合
自己実現欲求 (自己のすべての可能性を実現する)	<ul style="list-style-type: none"> ・安らかな死を迎えるため、まだやり終えていないことを解決する欲求 ・安心して暮らす欲求
美的欲求 (均整美、秩序、美)	<ul style="list-style-type: none"> ・視力、聴力、身体的自由、記憶力が低下しても、平静な気持ちを回復する欲求
認識欲求 (理解、探究)	<ul style="list-style-type: none"> ・忍び難い現実を納得のいくものにしたい欲求 ・整然と、調和している気持ちになれる、なじみある人間関係があり、くつろげる場所を見つけない欲求
尊重欲求 (達成、承認してもらい、他者から認められること)	<ul style="list-style-type: none"> ・承認、地位、自分らしさ、自尊心への欲求 ・役に立ちたい欲求 ・傾聴され、尊重されたい欲求
所属、愛情の欲求 (他者と交流する)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛され、所属したい欲求 ・人と接したい欲求 ・感情を表現したい欲求、その感情を受け止めてもらいたい欲求
安全欲求 (安心、安全と感じられること)	<ul style="list-style-type: none"> ・動かなくされたり、拘束されたりすることなく、育まれ、安心したい欲求 ・痛みや不快感を軽減する欲求
生理的欲求 (飢え、のどの渇き、性等)	<ul style="list-style-type: none"> ・触覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、性的表出等、感覚を刺激する欲求

事例

布を繰り返し触っている



この欲求を満たすために若いころ、十分な育児ができなかった、子供服を作ってやれなかったのが、せめて1着だけでも作ってやりたいと思っている



“誰かの相手の役に立ちたい”という心理的欲求に基づいていると思われる

以上2点を踏まえて記載を示すと以下のとおり

利用してまだ日が浅い鈴木さんが、朝から施設内を行き来している為、聞いてみると、「家に帰りたい」と言っていた。しかしながら朝食の準備に関心を示し、鈴木さんがその場を離れ、訴えを中断したため、特段の対応はしなかった

今回の出来事を、カンファレンスを開催し、鈴木さんに対し、“異変”（不安げに歩き回る、「家に帰りたい」と訴える等）がなぜ、決まった時間に起こるのか、今までの生活歴を含めて、観察していき、そうなるにいたった鈴木さんの心理状態を知る必要がある。

解決できなかった課題を何は何なのか、また本人の要求は何かを理解しようとする表現の記載⇒
今後の対策につながる

介護記録の活かし方

(1) 記録を目標設定に活かす

事例 1)

<音楽療法>

14:00

Mさんは、今日はとてもいい表情をしていた。体調もよいとのことだったので、楽器の演奏を取り入れることにした。

まず、「バラが咲いた」をうたい、その後、楽器を使ってリズムをとってもらおうこととした。はじめは、テーブルにラップを置いて手に取ってもらおうとしたが、自分で取ることはできなかった。しかし、職員が手渡しすると、ラップを自分で口元にもっていき何回も吹いた。舌が出ると声を出して笑うこともあった。続いて、「春が来た」をうたうと自らリズムをとってうたい始めた。

この記録から読み取れること

体調や気分がよいときには、楽器（ラップ）を吹くことができること、声を出して笑うなど、Mさんが楽しんでいることが明確という事が読み取れる。

この記録から必要と思われる目標設定で必要な事

今後のアセスメントにおいて、Mさんは楽器を演奏したいと思っているのか、具体的にどのような楽器でどのような曲を演奏したいと思っているのかなどを把握することにより、Mさんの生活に新しい、具体的な目標を設定することにつながる。

事例 2)

〈オムツ交換〉

5 : 00

定時のおむつ交換のためにYさんの部屋を訪ねると、おむつがはずされ、床に落ちていた。多量の尿失禁があったため、衣類をすべて着替えた。また、マットも濡れていたため交換した。

この記録から読み取れること

- ・ Yさんが「おむつをはずしている」ということ、
- ・ 「多量の尿失禁があった」ということ

複数回にわたり同じような状況が確認できた場合は、Yさんはおむつに違和感があり、「おむつが嫌いだ」という意思表示をしているととらえることができる

この記録から必要と思われる目標設定で必要な事

- ・ できるだけおむつをしないで生活できるよう具体的な支援計画が必となってくる。
- ・ 多量の尿失禁があるということは、その日の水分量や体の冷え、空調などの調整、おむつ交換のタイミングなどを再検討する必要性が考えられる。
- ・ 排泄のタイミングを把握し、トイレへの誘導を試みることで、おむつをはずすことができるように施設サービス計画の目標を設定することも可能かもしれない

(2) 記録を支援の方針の見直しに活かす

〈実習生と歌をうたう〉

15 : 00

食堂につながるテラスで、実習生と談笑したあと、歌をうたったり、思い出話をしたりして楽しそうに過ごしていた。よく見ると、歌をうたいながらピアノを弾いているように両手の指を動かしていた。Tさんは、ピアノが弾けるのかもしれない。

この記録からわかること

当初の目標設定

生活の楽しみとして、ほかの入居者と一緒に歌をうたう時間を大切にする

記録から見えること

特に実習生が来ている間は、テラスで一緒に歌をうたったという記録が頻繁にみられた。その様子を見ていた介護職がピアノを弾いているような両手の動きに気がきづく

最近の施設内の出来事でわかったこと

この記録を目にした別の職員が「ピアノを弾いていただけますか。聞いてみたいです。」とお願いすると、少しはずかしそうにしながらも、嬉しそうに弾いてくれた驚きがあった。

その後、Tさんは、施設のなかでピアノを弾く機会が増え、Tさんのまわりには、自然に人が集まるようになった。

新しい目標設定

生活の楽しみとして、過1回の合唱クラブで伴奏をする

(4) リスクマネジメントにつながる記録について

○月○日

20:00

朝は、朝食も摂らずによく眠っていた。お昼も深く眠っていたため、無理に起こさず、ゆっくり休んでいただいた。したがって、昼食も食べず、昼食後の薬も飲んでいない。18時頃、目を覚まされたようで、夕食は7割ほど摂取し、薬も服用。

この記録から読み取れること

- ・食事もしないで、深い眠りが夕方まで続いている日があるということ
- ・処方されている薬が指示どおりに服用されていないこと⇒医療職への報告が必要
- ・食事しないで眠り続けている⇒原因をカンファレンスで検討する必要がある。

この記録から言える事

- ・薬の影響か、機能低下による意識障害なのか、薬は、規定どおりに飲まなくても身体に影響のないものなのかなど、この記録には多くの危険と疑問がこの記録から読み取れる。
- ・Dさんのこのような状況に気づくことが出来ない状況では適切なケアを行っていたとは言えない。
- ・実際はかなりリスクの高い状況であったと推測できる



対策

- ・身体的に問題があるなら医療食につなげる
- ・Dさんのケアへの仕方の見直し
- ・スタッフの観察の仕方についての研修
- ・スタッフのヒヤリハット、リスクマネジメント意識の向上を図ること

(5) 職員研修に活用する事について

記録から職員の「つまずき」を把握する

(a) チームで職員を支援する

特養に勤める介護職Tの記録

「トイレへお誘いしたが断られた」という記述が1日に数回、それも数日間続いてあった

「トイレへ誘ったが断られた」という事実が繰り返し記述される背景には、介護職Tが「トイレにお誘いすること」自体をととても負担に思っている可能性が考えられる。

スーパーバイザーとしてアドバイス、今後の人材育成方針

一人で頑張るのではなく、チームで協力し、話し会っていくことで精神的な負担が軽減するように支援する

介護リーダーは、介護職Tに、トイレに誘導することをどのように感じているか、「とても困難なこと」と感じるではないか

その入居者についても一度、一緒にアセスメントを行い、さらに、より適切な誘導方法についてほかの職員を交えてカンファレンスを行い、チームで介護職Tを支援していくことが重要

(b) 知識や技術を補う

事故報告書をまとめて読み直してみたところ、介護職 K の記録がほかの職員に比べてとても多かった

検討内容

- ・ 事故報告書そのものの内容や書き方について確認する
- ・ なぜ、介護職 K が繰り返し事故を起こしているのか
- ・ 事故現場に居合わせることが多いのか

考えられる理由

- ・ 介護職 K の知識や技術がほかの職員よりも不足している
- ・ 介護職 K の勤務する時間帯において、職員の配置などに偏りがあり、極端な負荷がかかっている

この事例の対処法

周りの職員とともに、介護職 K の普段の介護の状況について確認すること入浴介護、排泄介護、食事介護、移乗介護など事故が発生しやすい場面にポイントをおいて、介護が適切に行われているかどうかを把握する。

具体的に介護職 K の知識や技術の不足が確認できた場合は、それを補うための研修を行うこと。

反対に、知識や技術が十分身につけていることがわかれば、職員配置など運営上の課題がないかどうか検討し、速やかに体制を整える必要がある。